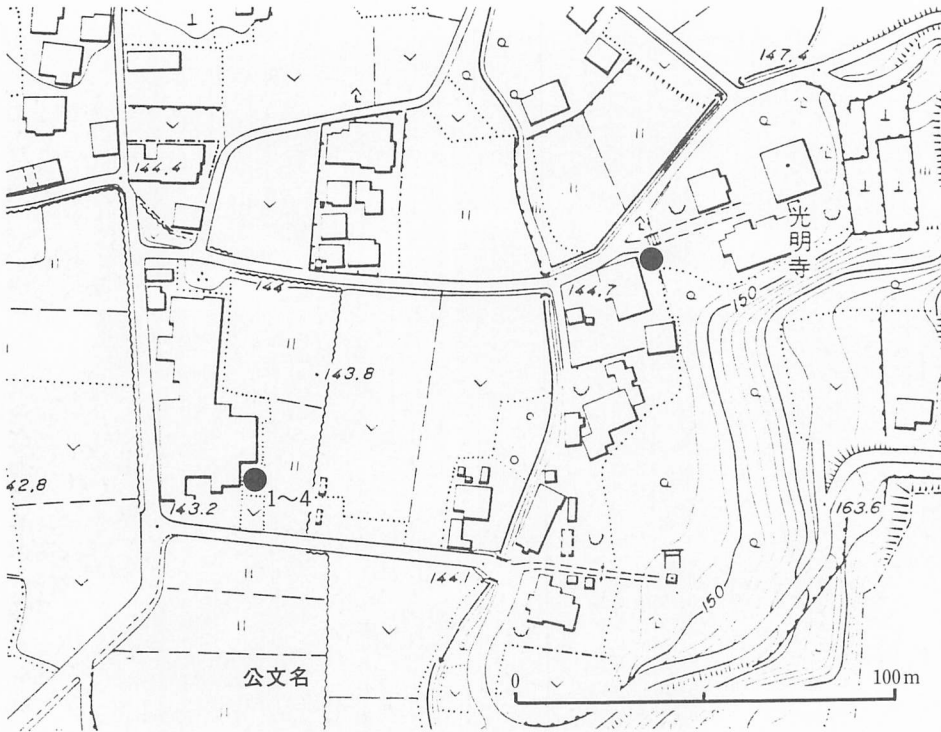


第六章 石造物

公文名石塔

所在地 裾野市公文名字舞台三二一八番地ほか



位置図

**位置** 箱根外輪山西麓に位置する裾野市公文名は、中央を流れる泉川と箱根外輪山の沢谷によって形成された、地味豊かな沖積平坦地が展開するところで、地名が示すように中世佐野郷に属した歴史的背景があるとされているところである。本石塔群は、市道一四号深良伊豆島田線、公文名三角橋交差点から公文名光明寺に至る道路が東に入ったところにあり、高村製材所裏手に公文名舞台石塔群が、また光明寺境内に欠損の五輪塔がある。

**石造物** 公文名舞台石塔群は、水田と畑に囲まれた方約八mの一区内に一一基の礎石を据え、その上に五輪塔、宝篋印塔のばらばらになった各部位を、よせ集めて組合わせたもので、完形のものではないと思われる。石塔1は、台石に宝篋印塔の基礎、塔身を乗せ、その上に五輪塔の空・風・火輪を置いたもの、石塔2は、反花座・基礎・塔身の上に、五輪塔の空・風・火輪を乗せたもの。3・4は、五輪塔であるが、各部位をよせ集めて組合わせたもので、完形のものとはみなしにくい。散在する各部位のなかに、宝篋印塔基礎が幅五〇cmを超えるものがあり、大型の石塔があったことがわかる。また、この舞台石塔の残存各部位は総じて大型のものであることも特徴的である。ここより北東約一五〇mのところにある光明寺山門の右手下に、空・風・火輪のみの不完形の五輪塔がある。

**現状** 地元の人によって、定期的に手入れがおこなわれ、保存状況は良好である。

舞台石塔群のある一区画は、一筆地番であり、近世から独立した区画であったと思われる。



公文名舞合石塔群全景



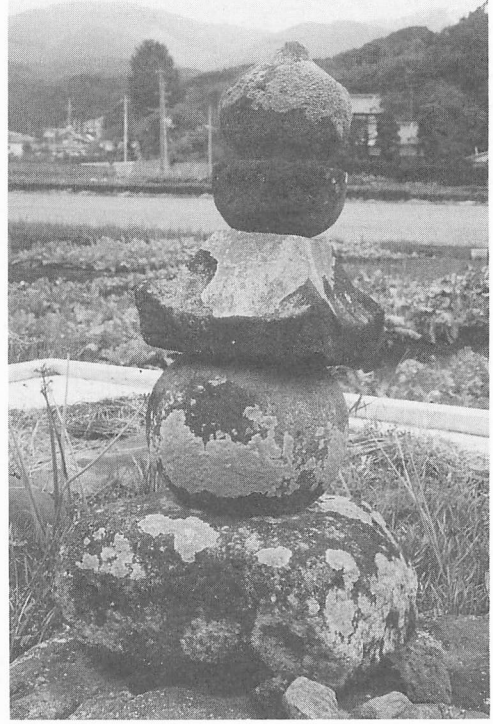
石塔 2



石塔 1



石塔 4



石塔 3

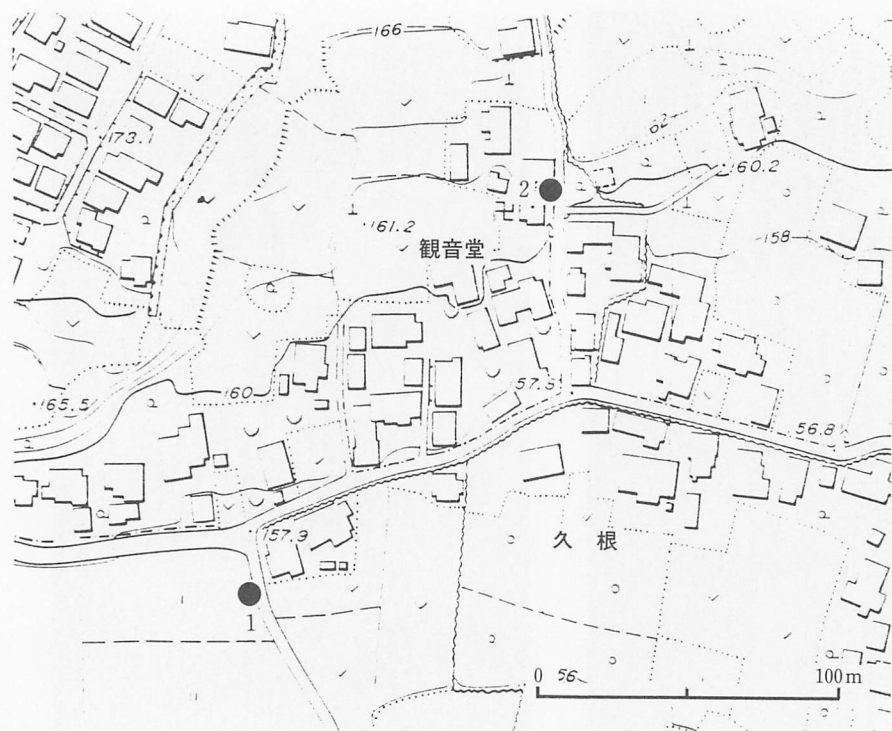


公文名光明寺五輪塔残部



## 久根五輪塔

所在地

裾野市久根字前之田四九三番地  
裾野市久根字横道観音堂

位置図

## 位置

裾野市久根八幡神社の北約一五〇mの、道路添西側の一角に近世末の念仏供養塔、馬頭観音像など七基の石造物があるが、その中に二基の五輪塔がある。一基はほぼ完形であるが、いま一基は火・水輪の残部である。ここよりさらに北約二〇〇mの横道観音堂境内の、近世の巡礼供養塔石造物群のなかに一基の五輪塔がある。この五輪塔は、堂宇東側道添の最奥部に位置している。

**石造物** 第1図五輪塔1は、八幡神社北方の五輪塔で、ほぼ完形である。高さ七五cmあり、空・風輪は一石でつくられ、火・水・地輪は、高さに対して幅がせまく、総じて細く高い。また、同所北側に五輪塔の地輪と思われる礎石上に火輪部が乗せられているものがある（全景写真参照）。

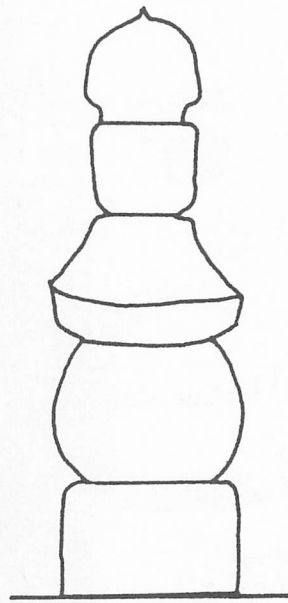
第2図五輪塔2は、横道観音堂内の五輪塔で、方形台石の上に乗る、ほぼ完形である。高さ六二cm、台石からは七五cmある。高さに対して幅がせまい。これら三基の五輪塔のいずれにも刻銘はない。

**現状** 道路添西側にある五輪塔の背後は水田である。風化がはげしいが観音堂五輪塔と共に、地域の人々によって定期的に手入れが行われている。

**伝承** 道路添の五輪塔は、以前は西よりの水田中であつたが、水田整理のとき地盤の固い現在地に移されたという。



久根八幡神社北石造物全景



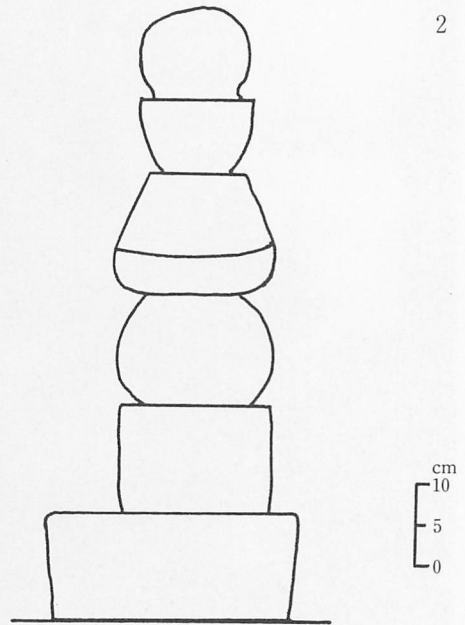
1

cm  
10  
5  
0

第1図 五輪塔 1



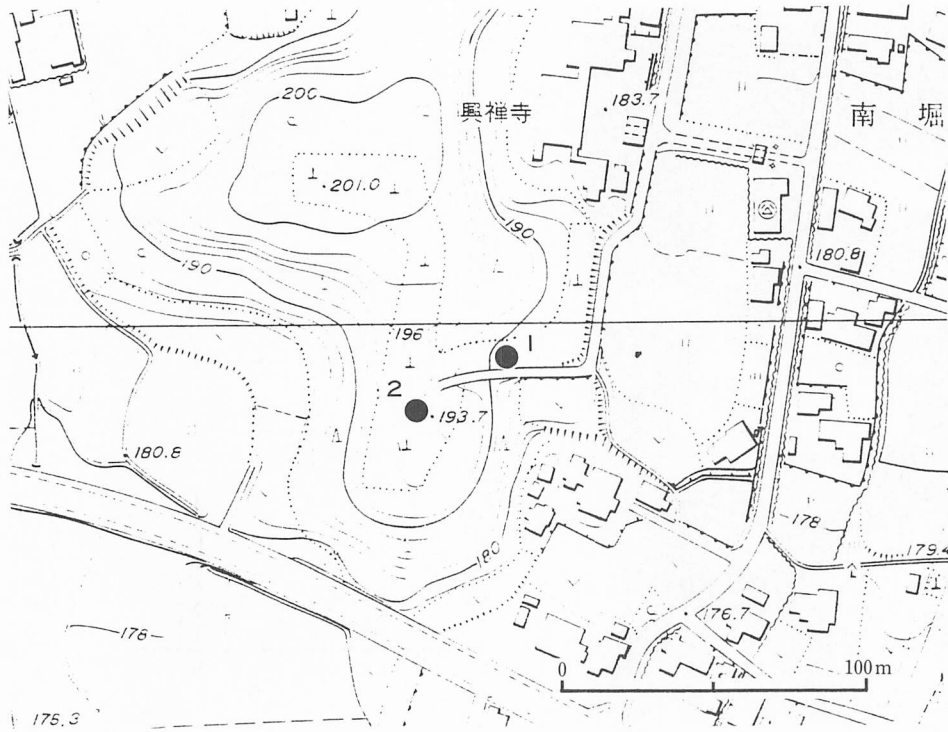
久根観音堂内五輪塔



第2図 五輪塔2

深良興禪寺宝篋印塔・五輪塔

所在地 裾野市深良字南堀興禪寺境内



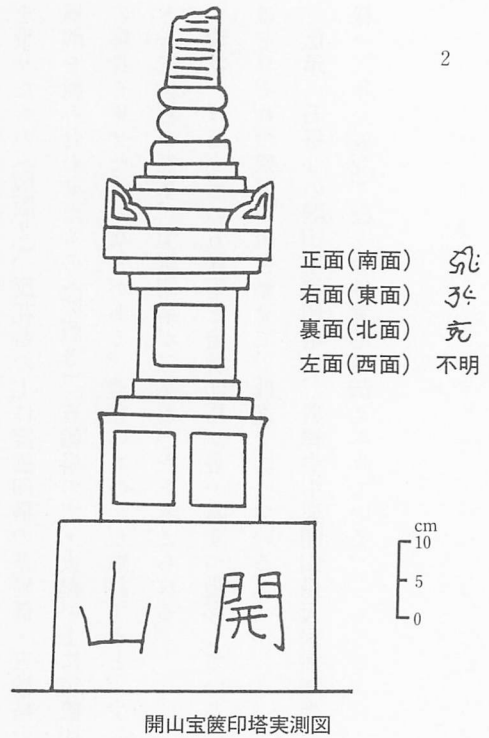
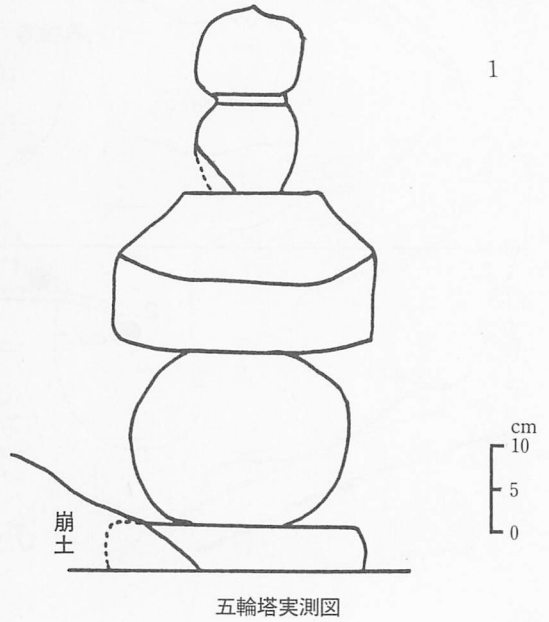
位置図

**位置** 裾野駅の北々東約二・八kmのところにある深良興禪寺は、中世豪族大森氏ゆかりの寺院である。本石造物は、この興禪寺西側裏山の墓地参道途中の右手に五輪塔一基と同残部一基、墓地内の歴代住職墓地内に、開山宝篋印塔一基及び五輪塔、宝篋印塔の残部が散在する。

**石造物** 第1図石塔1は、参道の途中、入口に近いところにある五輪塔で、地輪の大半が崩土に没しているが上部は完形で、高さ五六cm、火輪の幅三〇cm、厚さは一九cmあり、小型ではあるが重厚な姿をしている。第1図石塔2は、歴代住職墓地内右端にある宝篋印塔で、台部基礎に「開山」と刻む。基礎下部の反花座を欠くが上部はほぼ完形で、高さ八八cmあり、塔身に三字の梵字を刻む。その他雑多な組合わせて、五輪塔の火輪に宝篋印塔の相輪の一部を乗せたもの、宝篋印塔の基礎部と塔身、五輪塔の水輪、五輪塔の地輪と火輪の上に宝篋印塔の塔身を乗せたもの(図版2)、反花台の上に宝篋印塔の基礎部・五輪塔の空風輪を組み合わせたもの(図版3)、五輪塔の水・火輪の上に宝篋印塔の塔身を乗せたものなどがある。遺存のものから検討すると、少なくとも五輪塔が五基、宝篋印塔が三基あったと考えられる。

**現状** ほぼ完形の五輪塔と宝篋印塔が各一基ずつ現存している。他はそれぞれの残部を組合わせて、散逸を防いでいる。

**伝承** 石塔2の開山宝篋印塔は、興禪寺中興開山揚天宗播和尚〔永禄一二年(一五九)没〕の供養塔と伝えられている。



第1図 興禅寺石塔 1, 2





図版1 全景写真 開山宝篋印塔（下段右端）



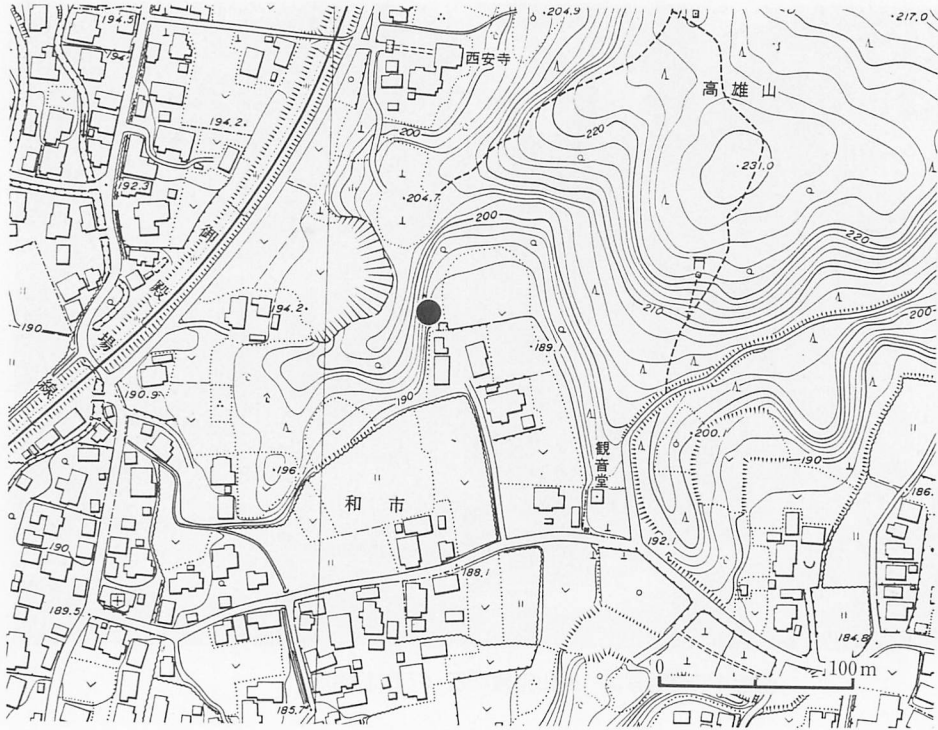
図版3



図版2

ふからわだ  
深良和田宝篋印塔・五輪塔

所在地 裾野市深良字和田二〇一七番地



位置図

**位置** 裾野市深良の高嶺山の丘陵から南西に延びた低い支脈に抱かれて、南に開いた方五〇mほどの谷戸地形があるが、本石塔群は、その西側の谷戸に落ち込む急斜面の裾部に位置する。

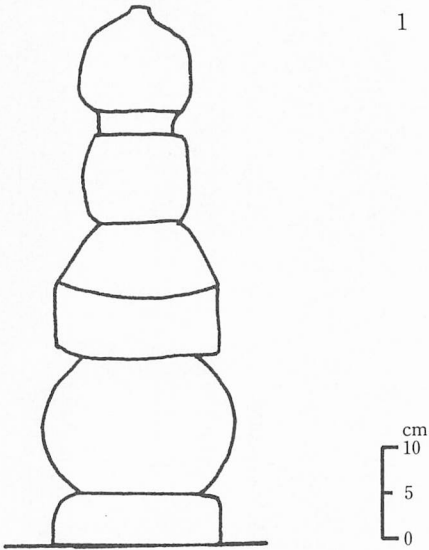
**石造物** 近世の墓石群の南端から、向かって右端より五輪塔一基、宝篋印塔四基、その左端は相輪と笠部だけである。さらに左へ五輪塔二基の計七基の石塔が並んでいる。第1図は五輪塔で高さ五八cm、空・風輪がやや大きいが重厚で均衡もとれている。第2図2・3、第3図4の宝篋印塔は、それぞれ高さが七一cm、七〇cm、六九cmあり、相輪部に若干の相違がみられるが、ほぼ同じ形態をしている。共に反花座を欠いている。第3図5は、宝篋印塔の相輪と笠部の残ったもので、笠部隅飾突起がやや外反し、他の右側の宝篋印塔と形態が異なるものと思われる。第4図6・7は、左端の二基の五輪塔で、それぞれ高さ五六cm、四四cmで、火輪に重厚さがなく、7は特に火輪が薄く、全体に均衡がとれていない。

**現状** 背後の斜面からの崩壊と立木の根張り、前後左右に傾きがみられる。土屋栄宅によって管理されている。

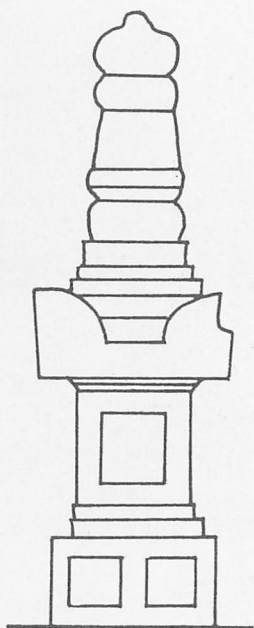
**伝承** この和田の七基の石塔は、一九二〇年代の東堀用水改修の際、現在地の西南西約一三〇mの用水泥土の中から発見され、現在地に移転、安置された。元の位置は切久保一九八四番地勝又卓宅地内の山際に安置されていたといわれており、中世大森氏ゆかりの墓と伝えられている。



深良和田石塔群全景

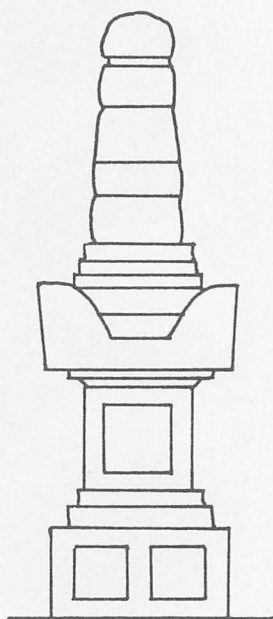


第 1 図 深良和田石塔 1



2

cm  
10  
5  
0

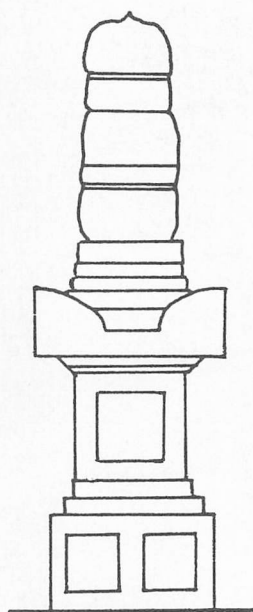


3

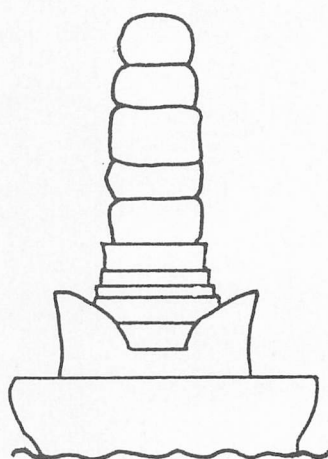
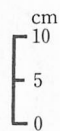
cm  
10  
5  
0

第2图 深良和田石塔 2, 3

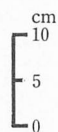




4

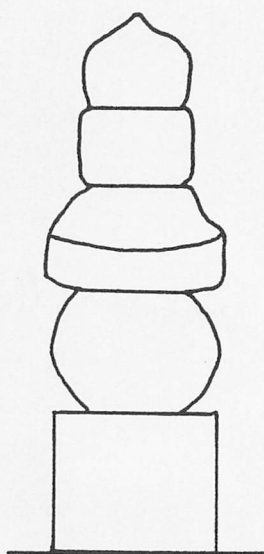


5

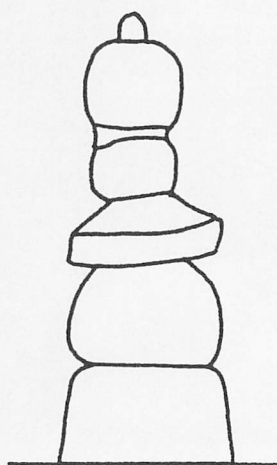
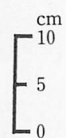


第3図 深良和田石塔 4, 5

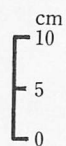




6



7



第4图 深良和田石塔 6,7

佐野蓮光寺宝篋印塔・五輪塔

所在地 裾野市佐野字本宿三〇八番地



位置図

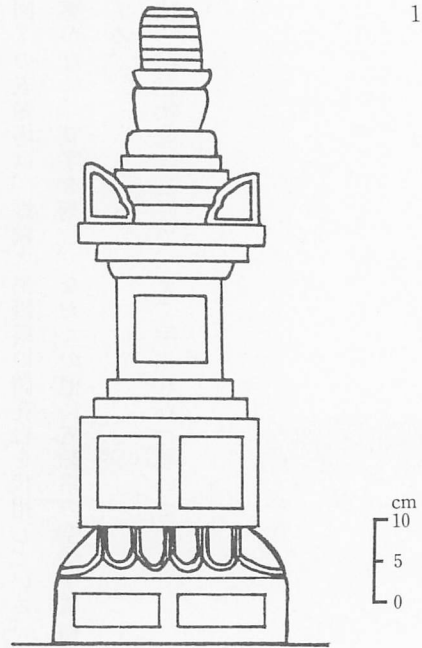
**位置** 佐野蓮光寺は、旧国道二四六号、近世の矢倉沢街道沿いの佐野本宿にあり、かつて本寺院は「御厨横道霊場」となっていた。本石塔群は、境内墓地の東側最前列にある。

**石造物** 図版1に示したように、右端から無縫塔を中にして宝篋印塔二基、五輪塔五基が並ぶ。第1図1の宝篋印塔は、反花座から高さ七六cm、相輪最上部が欠けるが全体に均整のとれた、重厚優美な形態をしている。塔身に四梵字が刻まれている。第2図2の宝篋印塔は反花座を欠き、相輪は五輪塔の空・風輪を置く。第2図3の五輪塔は、高さ六一cm、水輪が大きく張り、火輪が小さく、やや均衡を欠く。水輪に四梵字を刻む。第3図4の五輪塔は、高さ五七cmあり、形態は比較的よく整っている。第3図5は、地輪が薄く貧弱であるが、上部は重厚である。水輪に梵字を刻む。第4図6の五輪塔は、高さ五八cm、形態は比較的よく整っているが、上部が重い。水輪に四梵字を刻む。第4図7の五輪塔は、地輪に無縫塔の請花台を代用している。水輪の安定感がない。梵字を刻む。なおこの他に五輪塔の空輪・風輪が一個ずつある。

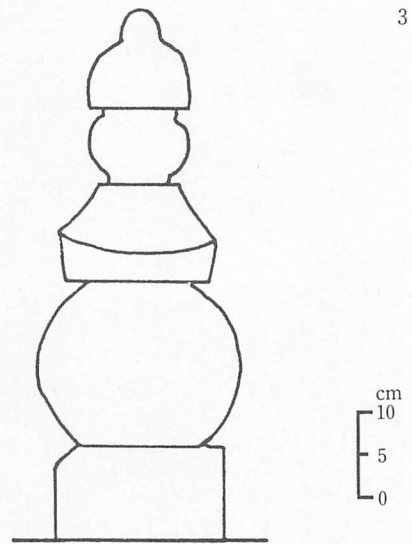
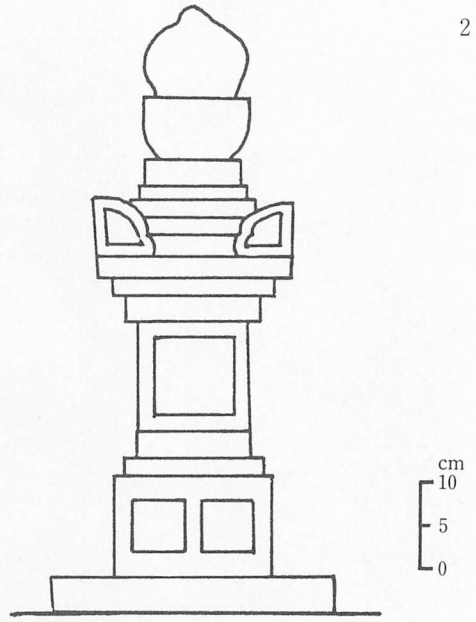
**現状** 保存状態は良好で、よく手入れが行届いている。



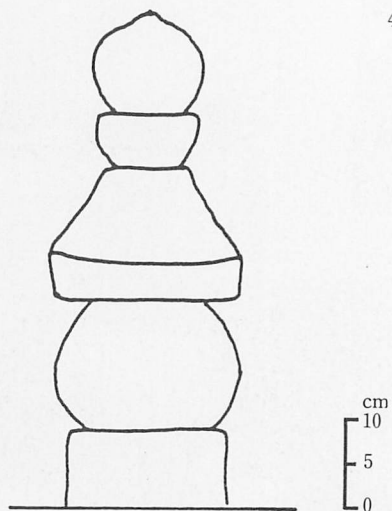
佐野蓮光寺石塔群全景



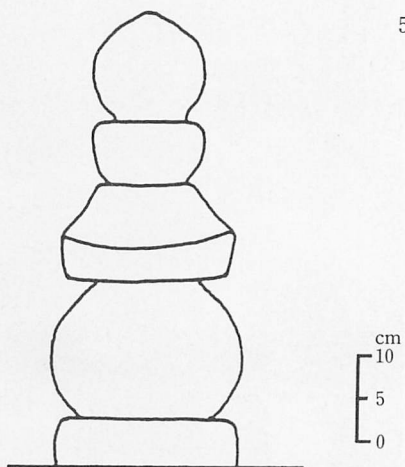
第1図 佐野蓮光寺宝篋印塔 1



第2図 佐野蓮光寺宝篋印塔2, 五輪塔3



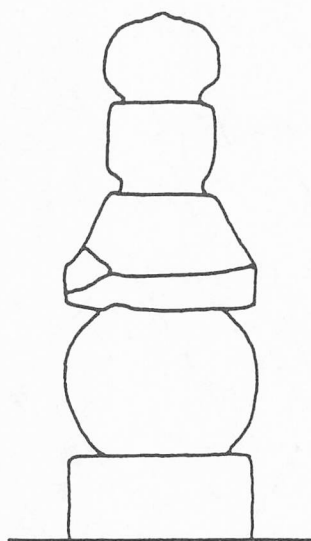
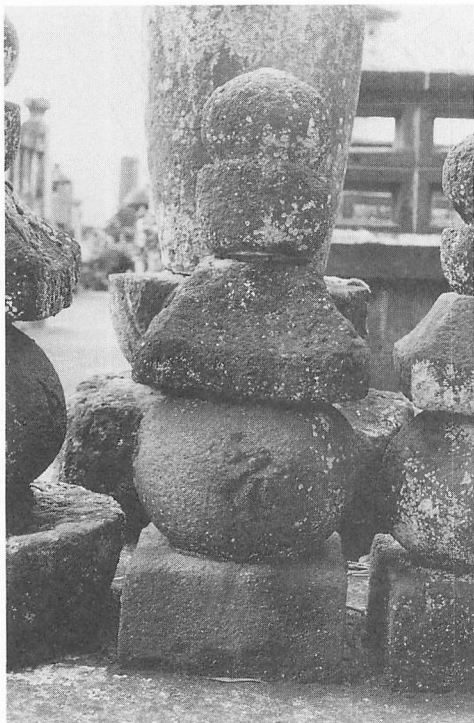
4



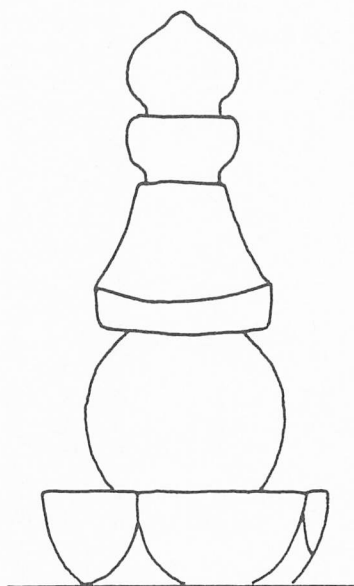
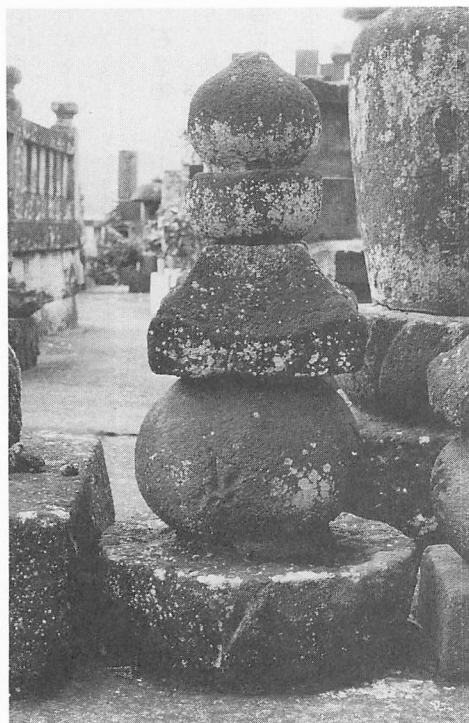
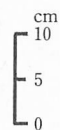
5

第3図 佐野蓮光寺五輪塔 4, 5





6



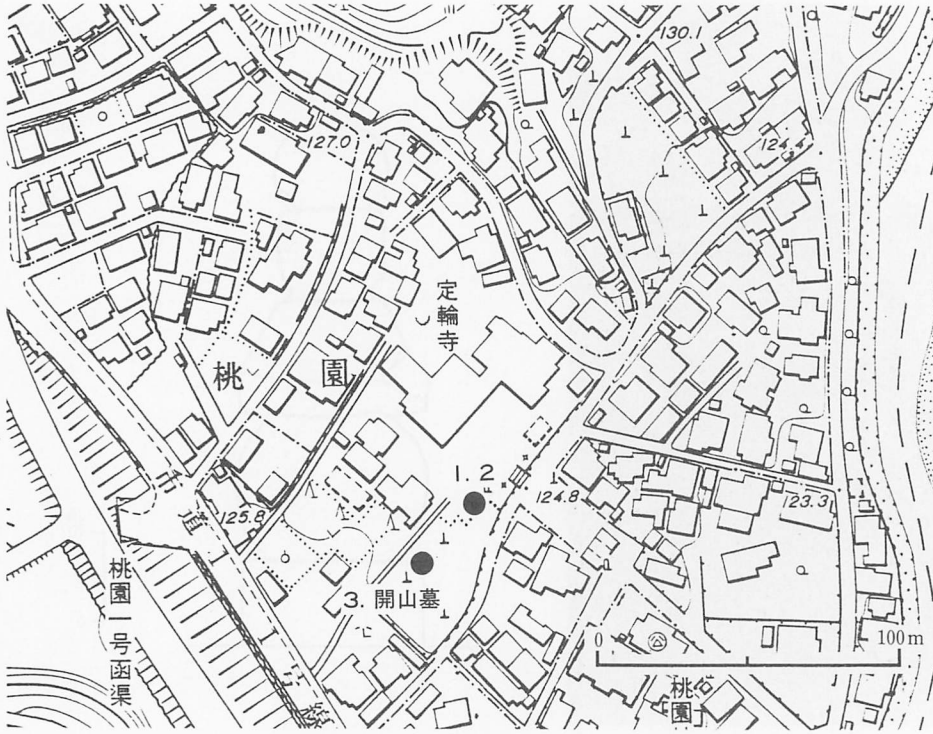
7



第4図 佐野蓮光寺五輪塔6,7

ももぞのじょうりんじ  
桃園定輪寺石塔

所在地 裾野市桃園字山下一五四番地



位置図

**位置** 裾野市桃園は、愛鷹山東南麓の尾根末端に挟まれた小さな入谷に成立した集落で、前面に黄瀬川が流れ、南側にわずかに開いた袋状のところにある。定輪寺は、集落のほぼ中央に位置し、本石造物はその境内にある。

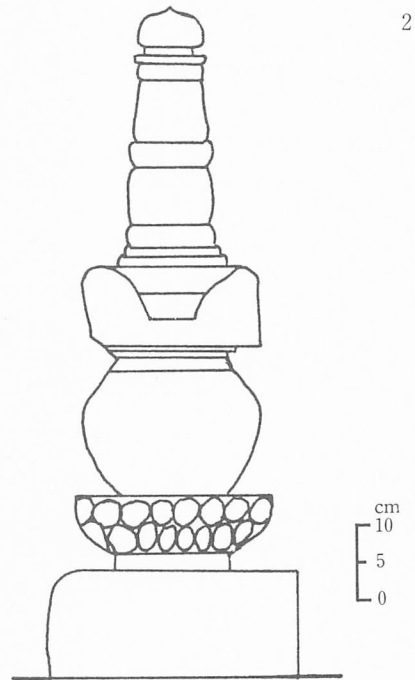
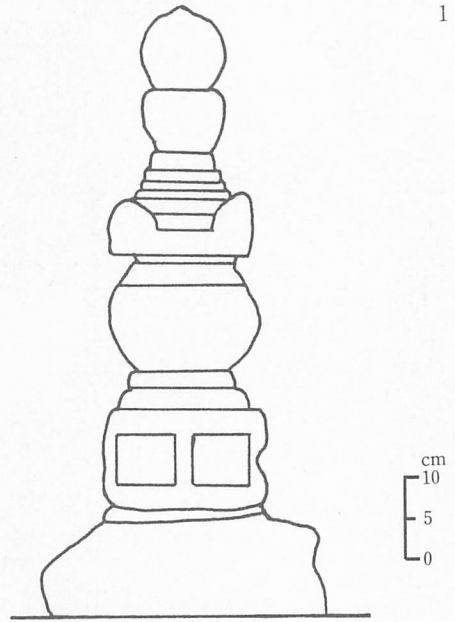
**石造物** 第1図石塔1は、定輪寺山門を入った左手東南部の隅にあり、高さは台座より七五cmの変形宝篋印塔である。反花座はなく、基礎の上に五輪塔の水輪を置く。隅飾突起の笠の上に五輪塔の空・風輪を乗せる。全体のバランスはよく整っている。宗祇墓とされている。

第1図石塔2は宗祇墓入口の垣根沿いにあり、高さは台座から八〇cmで、これも変形宝篋印塔である。下部の花座が逆で、一種の蓮華台（請花）となっている。塔身は五輪塔の水輪となっている。図版1の開山墓は、歴代住職墓群の中央にあり、円柱台座の上に蓮華台を置き、五輪塔の水輪上に宝篋印塔の笠、上部に五輪塔の空輪を乗せてある。円柱台座に「開山」「康正二丙子天、三月十九日」と刻してある。図版

2石塔3の自然石無縫塔は、境内南側垣根きわにあり、「光阿弥陀平氏」「天文廿一壬子十二月三十日」と刻してある。開山墓の刻銘年号の書体は、他の歴代住職墓の円柱台座銘文のものと同じであり、後世、ある時点でいっせいに造立された疑いが強い。なお、定輪寺境内の変形宝篋印塔と同じ形態のものが、宗祇ゆかりの静岡市柴屋寺に存在する。

**現状** 手入れがよく行届き、保存状態は良好である。

**伝承** 宗祇の墓は、定輪寺北西三〇〇mの山裾にあったが、現在地に移転したという。



第1図 桃園定輪寺石塔 1, 2



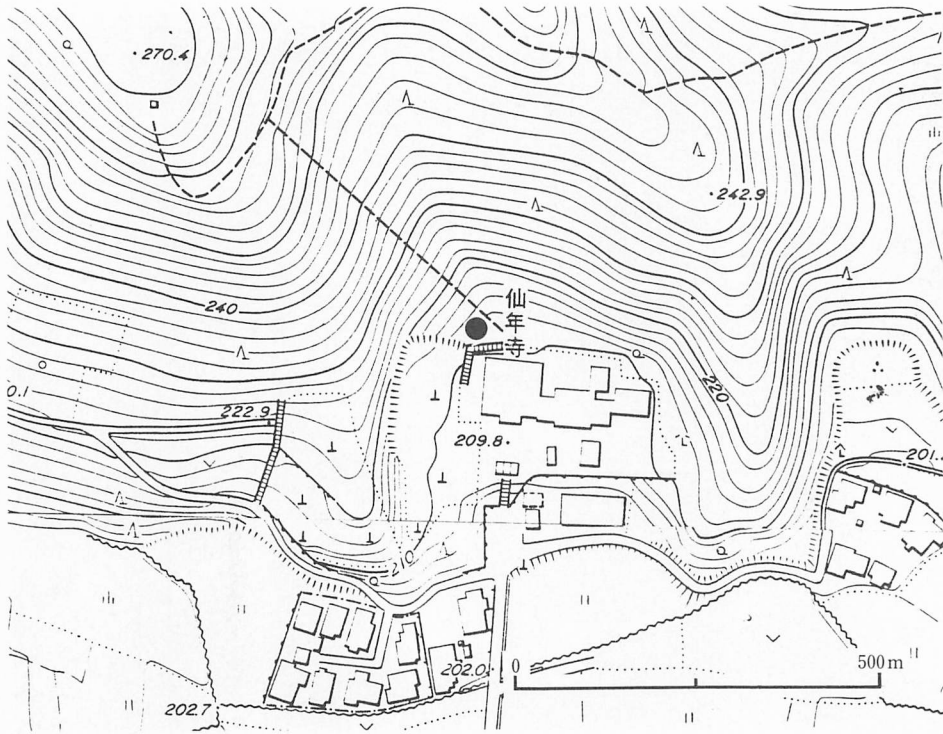
図版 2 定輪寺石塔 3



図版 1 定輪寺開山墓

## 葛山仙年寺宝篋印塔・五輪塔

所在地 裾野市葛山字中村四九一番地仙年寺境内



位置図

**位置** 裾野市葛山は愛鷹山東麓の入谷状の静かな山村であり、中世の豪族葛山氏の本拠地であった。本石塔群は、葛山氏菩提寺とされる同地の仙年寺裏山際にあり、葛山氏歴代墓所といわれている。この背後は葛山城跡で、仙年寺もその城郭内であるとする。

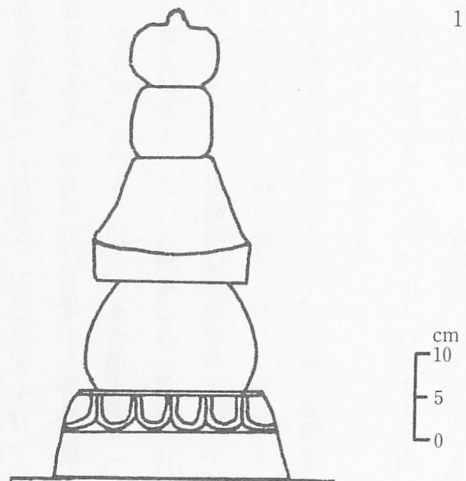
**石造物** 墓域内に五輪塔九基、宝篋印塔八基が遺存する。正面に高さ一二三cm、火輪幅五二cm、水輪幅六一cmの大型五輪塔(第5図9)があり、それを中心に高さ五〇〜六〇cmの宝篋印塔と五輪塔が「□」形に配置されている。北側の列は向かって右端から五輪塔二基(第1図1、第2図2)、宝篋印塔三基(第2図3、第3図4・5)、奥正面は右端から宝篋印塔(第4図6)、五輪塔二基(第4図7、第5図8)と並び、中央の五輪塔があり、次に五輪塔(第6図10)、宝篋印塔二基(第6図11、第7図12)と並ぶ。このうち11には基礎部正面に「為蓮修造立供養所也道源」、右側面に「康応元年十月」、左側面に「十五日敬白」の銘文がある。南側の列は右端から宝篋印塔二基(第7図13、第8図14)が並び、このうち13には基礎部正面に「性穩禪門 明德戊辰三月」の銘文がある。次に五輪塔三基(第8図15、第9図16・17)が並んで終わりとなる。五輪塔は地輪部が不揃いで、原形ではないと思われるものもある。火輪の高さに対して幅がせまく、背が高い共通点がある。宝篋印塔は伏鉢が大きく、相輪に安定感が失われており、隅飾突起が外反するものもある。

**現状** 葛山城址保存会によって手入れがよく行届いている。墓地東南隅に宝篋印塔の塔身部一、相輪部一、五輪塔空・風輪五が集められている。

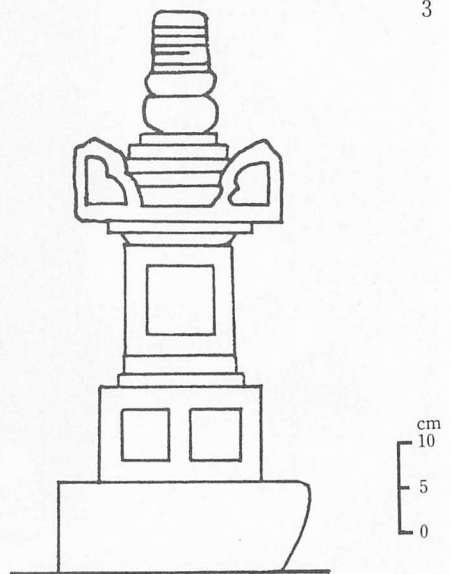
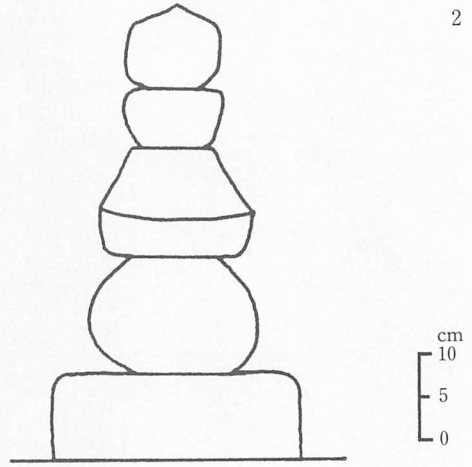




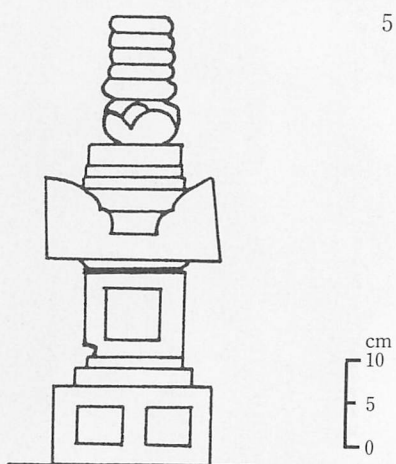
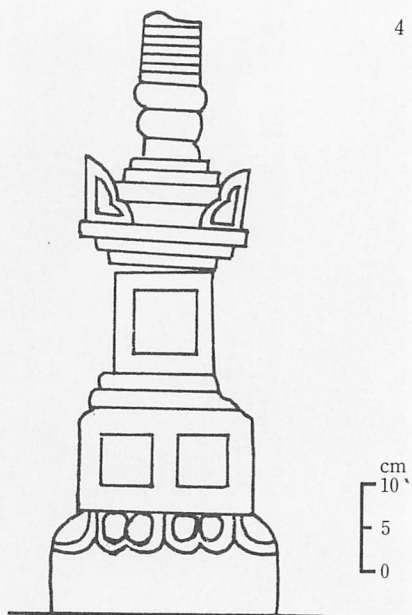
仙年寺葛山歴代墓地全景



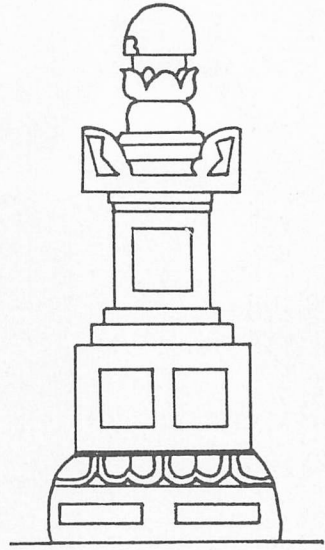
第1図 仙年寺石塔1



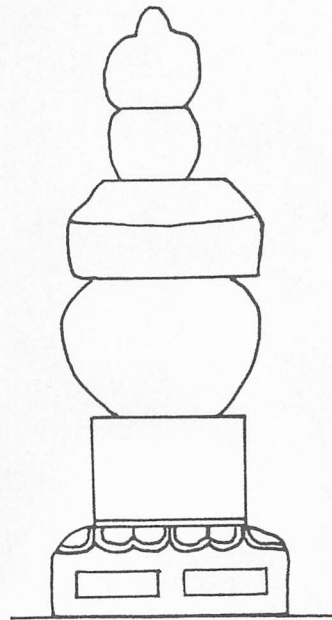
第2図 仙年寺石塔 2, 3



第3图 仙年寺石塔 4, 5

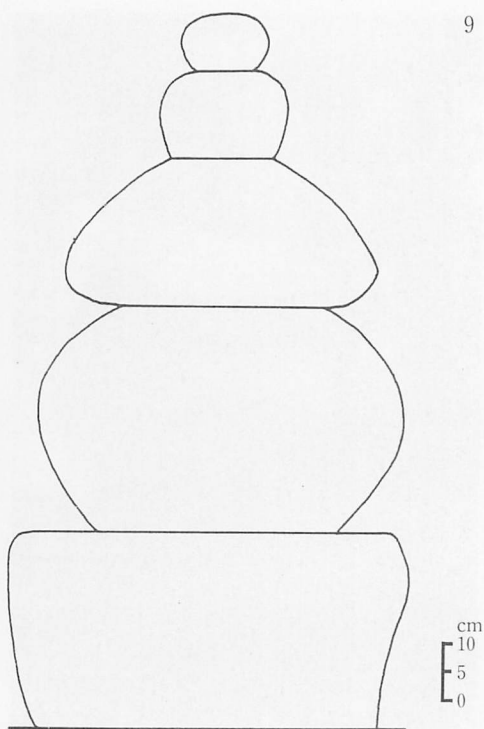
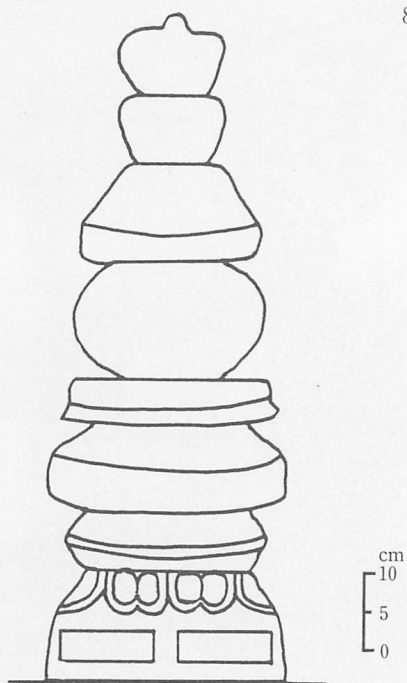


6



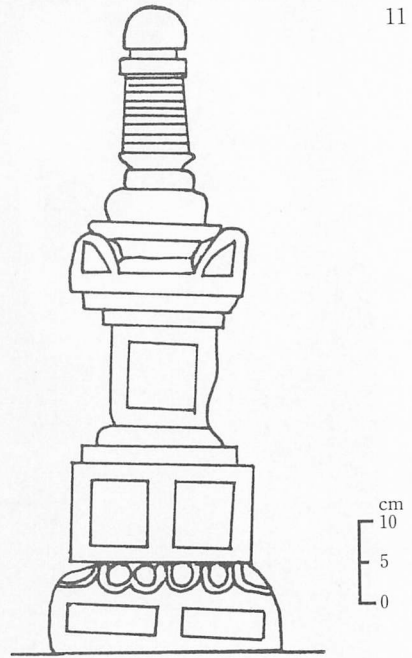
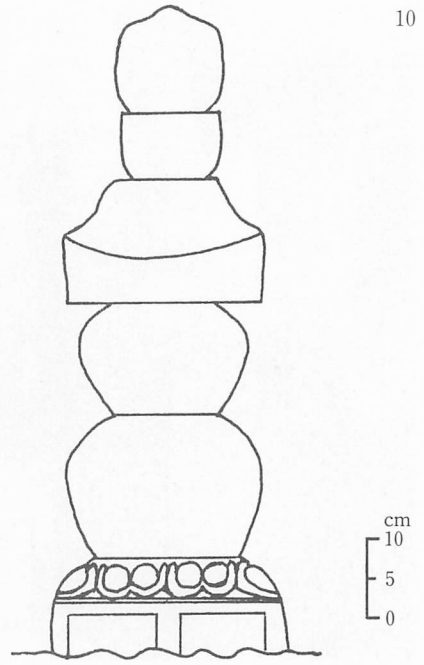
7

第4图 仙年寺石塔 6, 7

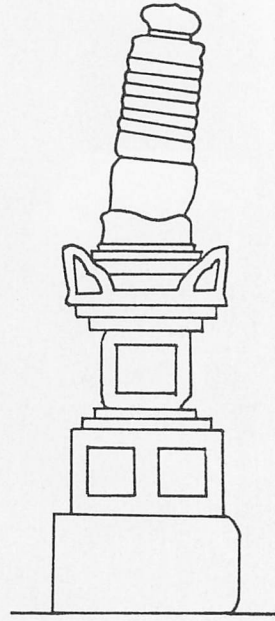


第5图 仙年寺石塔 8, 9



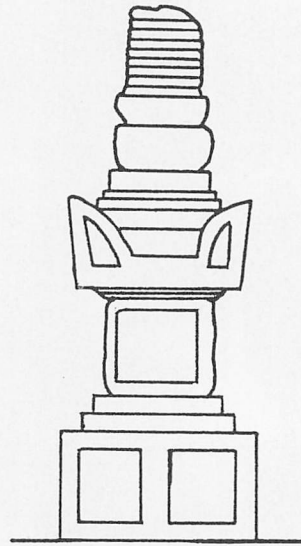


第6图 仙年寺石塔 10, 11



12

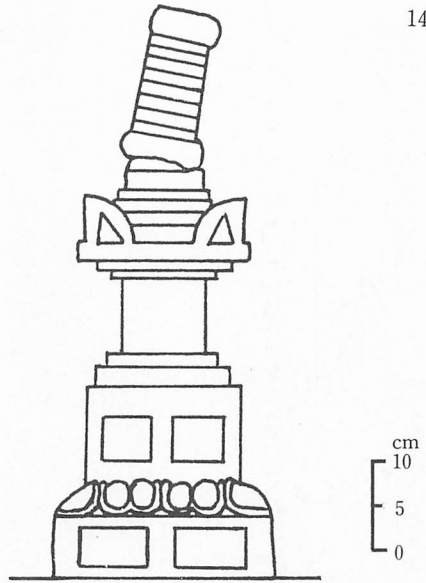
cm  
10  
5  
0



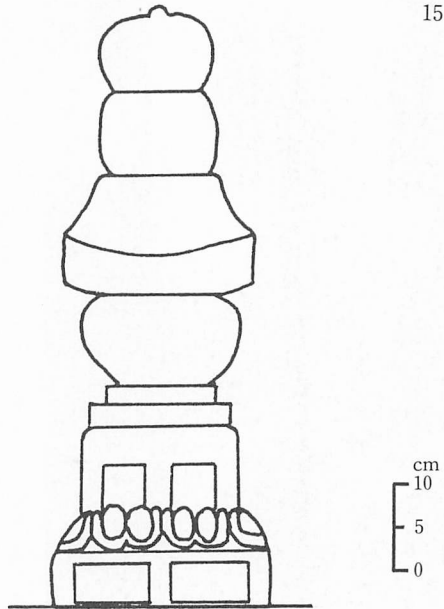
13

cm  
10  
5  
0

第7图 仙年寺石塔 12, 13

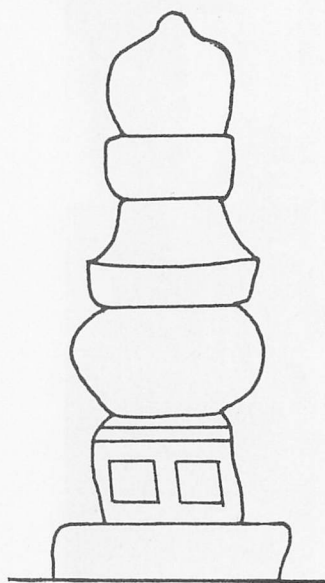


14

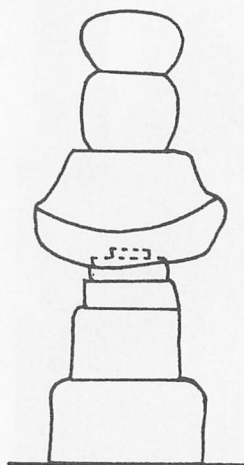
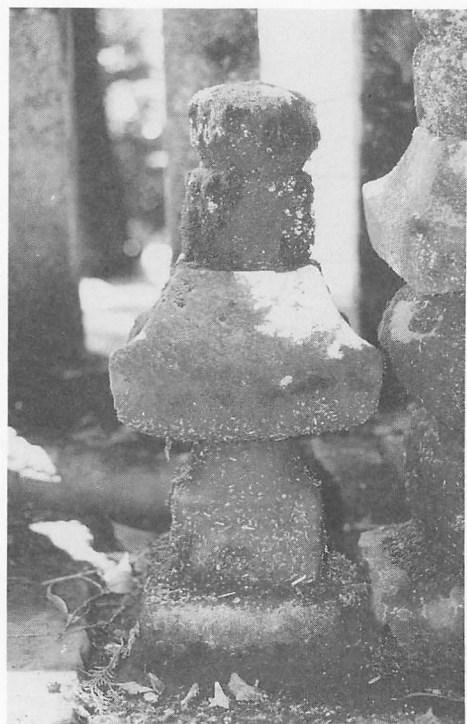
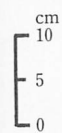


15

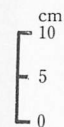
第8图 仙年寺石塔 14, 15



16



17



第9图 仙年寺石塔 16, 17

所在地 裾野市葛山上城



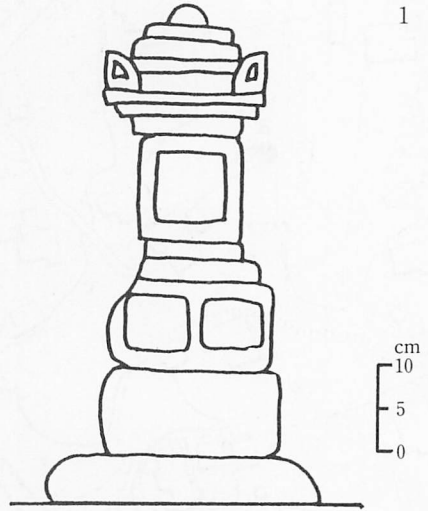
位置図

**位置** 葛山上城は、葛山入谷地形の西奥部に成立した集落で、山裾に抱かれたところにあり、本石塔は集落を形成する人家の中に点在している。

**石造物** 第1図石塔1は、勝又明地内の芝畑中央にある宝篋印塔で、台座からの高さ約五七cm、上部の相輪は円石に置き変えられている。反花座はなくて塔身は基礎部と大きさが合っていない。本石塔の台座周辺に、相輪部と塔身部が置かれ、人の手によって時には入れ変えられるという。図版1の石塔2は、前記石塔1の西約一五〇mの勝又一地内にあり、宝篋印塔の塔身部二を五輪塔水輪の上下に積み重ねたものである。下部塔身に「妙祥禅(門)康応巳年六月五日」、水輪上の塔身に「逆修禅勸□□□□」と、一部判読できない文字が刻まれている。図版1の石塔3は、西川久男地内にあり、宝篋印塔の笠部と五輪塔の空・風・水輪を交互に積み重ねたものである。以上の残部から当地において少なくとも五輪塔と宝篋印塔が数基あったことが想定できる。

**現状** 所有者によって、それぞれ保存に努められている。





第1図 葛山上城石塔1



図版1 葛山上城石塔2,3

深良向田上宝篋印塔  
ふからむかいだうえ

所在地 裾野市深良字向田上三二七九番地

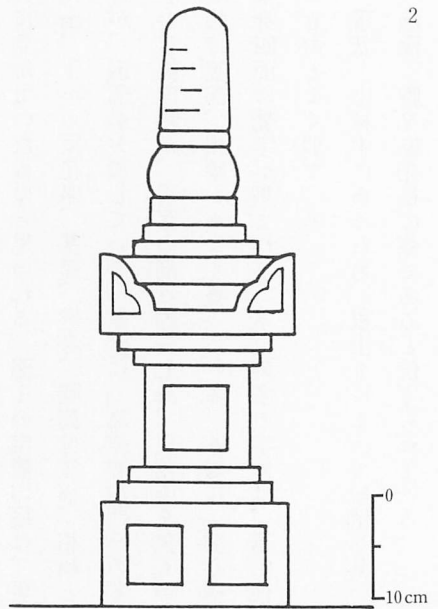
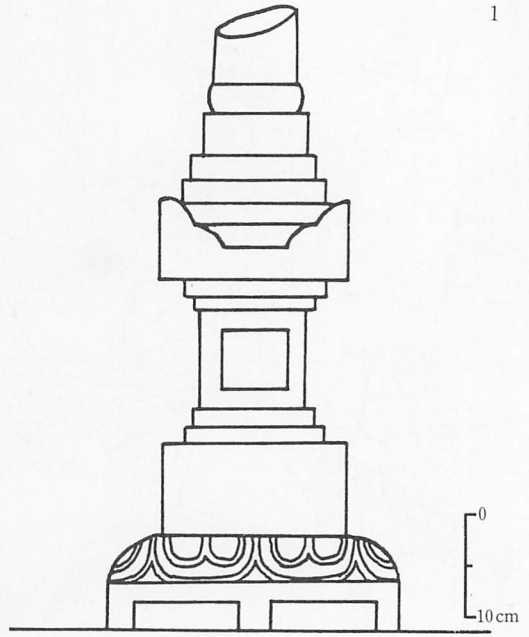


位置図

**位置** 深良の須釜北から南西に向かって、箱根山麓の丘陵が岩波の駒形神社裏手まで延びているが、神社境内と南側崖下の勝又実宅との間に、採土によって削り残された丘陵末端部分がある。その狭い急斜面のわずかな空間の山林中にある勝又家墓石に連続して、宝篋印塔が存在する。

**石造物** この宝篋印塔は、平成三年（一九九一）十一月、市史編さん事務局の濱田明が、明治一四年（一八八二）作製の新道深良宮城野線測量図に記載された「与右衛門宅地跡」ほか数軒の宅地跡調査をしたときに「佐助跡」（現勝又実宅地）確認のため、裏手崖上にある墓石を調査中に発見したものである。宝篋印塔は樹木の根によって前面に転倒していたが、組み合わせると一個体と確認できたものが二基あり、そのほか反花座二、基礎部二、塔身部一と、五輪塔の空輪一、風輪一、火輪一があつて、勝又家墓石群の右端から五輪塔一基、宝篋印塔四基が一列に並んでいたものと思われる。図1の宝篋印塔は、現存の高さ約五九cm、下から反花座、基礎、塔身、隅飾付笠部、相輪とよく整っているが、頂部が欠損している。基礎に「為道春禅門」の刻名がある。図2の宝篋印塔は、現存の高さ約五七cm、反花座を欠くが、基礎、塔身、隅飾付笠部、相輪ともよく整っている。基礎に「明心禅門」の刻名と塔身四面に梵字が刻まれている。刻名の字体は、葛山仙年寺宝篋印塔のものとはよく似ている。

**現状** 山林中にあるため、根上りによって転倒し易い状況にある。  
**伝承** 勝又家先祖の墓であると伝えられている。



深良向田上宝篋印塔 1・2



長泉町納米里五輪塔



長泉町中土狩地藏尊

(参考石造物)

静岡県駿東郡長泉町中土狩 地藏尊石像

〔嘉吉三年卯月二十四日 奉施入十方檀那 敬白〕と刻まれているところから、「嘉吉地藏」ともいわれ、駿河記にも記載されている。数基の群集墳の上に建てられ、高さ約六二cmあり、頭部は磨滅している。巨勢（古瀬）伊予守墓と伝えられている所に隣接している。

駿東郡長泉町納米里 五輪供養塔

旧国道二四六号と交差して走る「御厨道」といわれる古道の路傍にある。高さ約一二〇cmの大型五輪塔である。銘文に「奉造立五輪塔者 従東西六十六所巡礼往還旅宿之供養刻彫茲諸天洞鑿二科究竟而已（五〇）文亀元年辛酉六月 日 俊盛 敬白」とあり、年代のわかる五輪塔として貴重な資料である。